

平成24年8月17日（金）

～石巻商業高校の生徒の皆さんの日本大使館訪問～

8月17日、エルケム・サンシャイン・フレンドシップ・プログラムでノルウェーを訪問中の石巻商業高校の生徒の皆さんが、在ノルウェー日本国大使館を訪問されました。本プログラムを主催するエルケム社の日本支社の伊達エルケム・ジャパン社長、宮浦石巻商業高校主幹教諭をはじめ、7名の生徒の皆さんが当館の鈴木参事官および館員と懇談されました。

また、その後、生徒さんらはオスロ商業高校にて、日本語を学ぶノルウェーの生徒らとの交流を行いました。宮浦主幹教諭より震災直後の街の様子、石巻商業高校の学校生活などの紹介があったほか、オスロ商業高校で日本語を学ぶノルウェーの生徒によるノルウェー文化の紹介が日本語で行われました。参加した学生たちは、日本語・英語を駆使し、自分たちの趣味や学校生活について情報を交換し合うなど、終始和やかな雰囲気では進行しました。日本の震災に対するノルウェーからの支援をきっかけに生まれた日・ノルウェー間の青少年交流が、今後の両国の絆を深める一つのきっかけになることを願いつつ、交流会は終了しました。



オスロ商業高校前にて記念撮影



大使館を訪問した一行

～今次訪問の経緯～

今般、ノルウェーを訪れたのは、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地にある宮城県石巻商業高校の生徒の皆さんたちです。震災発生直後、日本を何らかの形で支援したいと考えたノルウェーのエルケム社(Elkem AS)によって、太陽光発電設備が同高校に寄贈されたのは昨年11月のことです。以来、エルケム社は同校の生徒を対象に再生可能エネルギー、太陽光発電の構造などについて出前事業を実施するなど関係を深めており、今般、日本・ノルウェー青少年交流プログラムを企画、エルケム・サンシャイン・フレンドシップ・プロジェクトとして、将来を担う若者をノルウェーに招待しました。

エルケム社は、1904年にノルウェーで発足した電気化学系の企業です。戦前、経営の危機に際し、日本企業（三井物産）による支援で企業活動を継続することができた経緯があるなど、日本とも歴史的に深い関係を持っています。

また、平成16年に日本国より旭日中綬章を授章されたヨルゲン・フロード初代日諾協会会長は、1980年代にエルケム・ジャパンの社長を務められています。

先般の東日本大震災では、何か日本に貢献できないかとノルウェー本社社長が直々に日本支社へ電話をされ、支援が検討されました。その結果、当初は赤十字社を通じた義捐金の提供が検討されましたが、ノルウェーとの関係が比較的弱かった東北地方において、目に見える形で発展性のある方法で貢献したいとの考えから、同商業高校に対し、エルケム社製のシリコンを用いた太陽光発電設備の寄贈計画が発案されました。